

## 2018年度重点施策と関連設備投資について

2018年度も、安全・安定輸送の確保を最優先に、東海道新幹線の脱線・逸脱防止対策をはじめとする地震対策、土木構造物の大規模改修工事、N700A（3次車）の投入等を着実に進めるとともに、ホームページにおいて提供する列車運行情報の充実、駅や車内の無料Wi-Fiサービスの拡大など、より便利に鉄道をご利用いただけるよう取り組みます。また、2019年度末の東海道新幹線全列車の最高速度285km/h運転化に向けたダイヤの検討や、2020年度に予定しているN700S量産車の投入に向けた走行試験を進めるほか、ハイブリッド方式による在来線次期特急車両の試験走行車の新製を進めます。

超電導リニアによる中央新幹線計画については、安全、環境、地域との連携を重視して、着実に進めます。高速鉄道システムの海外展開についても着実に推進するとともに、関連事業については、JRセントラルタワーズとJRゲートタワーを一体的に運営し、相乗効果を発揮することで、収益拡大を図ります。

こうした各種課題を着実に進めるため、引き続き、収益力の強化と技術レベルの不断の向上に取り組むとともに、設備投資を含めた業務執行全般にわたり知恵を絞り効率化と低コスト化を徹底し、経営体力の充実を図ります。

### I. 重点施策（別紙参照）

- 安全・安定輸送の確保
- 輸送サービスの充実
- 超電導リニアによる中央新幹線計画の推進
- 超電導リニア技術のブラッシュアップ及びコストダウン
- 営業施策の強化
- 技術開発の推進、地球環境保全、高速鉄道システムの海外展開
- 関連事業の着実な推進

### II. 設備投資額

連結：5,240億円、単体：4,950億円

※中央新幹線を除いた設備投資額（単体）は2,450億円、うち安全関連投資は1,850億円

# 安全・安定輸送の確保

(設備投資額：1,470億円)

## 地震対策をはじめ構造物のさらなる強化に取り組みます

- ・東海道新幹線の**脱線・逸脱防止対策**について、より安全性の高い方式に改めた**脱線防止ガード**の全線への敷設を進める。
- ・地震による**駅の吊り天井の脱落防止対策**や、**名古屋工場等の建替・耐震補強工事**を進める。
- ・東海道新幹線の**大規模改修工事**について、技術開発成果を導入し、施工方法を改善するなどコストダウンを重ねながら着実に進める。



大規模改修工事

## 事故防止や異常時対応の取組みを進めます

- ・高い感度で設備や工事に内在するリスクを掘り下げ、安全に関する仕組みを再点検し、一層の**事故防止**に努める。
- ・災害等の異常時に想定される様々な状況に適切に対応するため、**実践的な訓練**を繰り返し実施する。



車両の脱線復旧訓練

(参考)・脱線防止ガード敷設：2018年度 約99km

・駅天井の脱落対策：新幹線 全17駅、在来線 30駅 (2016～2026年度 約130億円)

・大規模改修工事：2018年度 370億円 (2016～2019年度 1,450億円)

# 輸送サービスの充実（1）

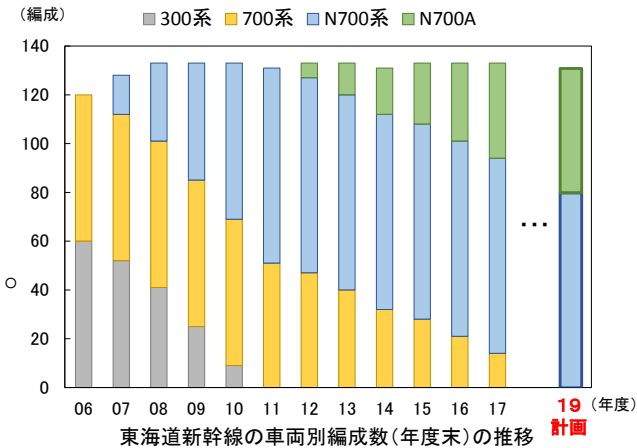
（設備投資額：500億円 ※(1)(2)計）

## より利便性の高いダイヤを実現するための取組みを進めます

- 「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、ご利用の多い時期や時間帯に、需要にあわせたより弾力的な列車設定に引き続き取り組む。
- N700A（3次車）の投入を進めるとともに、既存車両に地震ブレーキの停止距離短縮等の3次車の特長を反映させる改造工事を進める。
- 2019年度末の東海道新幹線全列車の最高速度285km/h運転化に向けて、利便性・安定性をさらに高めるダイヤの検討を進める。
- 「しなの」、**「ひだ」等の特急列車**について、引き続き需要にあわせ弾力的に増発や増結を行う。



N700Aタイプ車両



ワイドビューしなの

（参考）・ N700A（3次車）：2018年度 7編成（2016～2019年度 20編成投入）  
・ 3次車の特長を反映させる改造工事：2018年度 52編成（2017～2019年度 111編成対象）

# 輸送サービスの充実（2）

## より安心して鉄道をご利用いただけるよう設備の整備等を進めます

- ホーム上の可動柵について、新幹線では新大阪駅の20～26番線への設置工事に着手し、在来線では金山駅での実証試験を進めるとともに、設置に向けた仕様の検討等を行う。
- 在来線ホームにおける内方線付き点状ブロックへの取替について、乗降3千人以上の駅での取替計画を2年前倒して完了する。
- 在来線駅におけるエレベーターや多機能トイレの設置等バリアフリー設備の整備を推進する。



金山駅で実証試験中の可動柵

## より便利に鉄道をご利用いただくための取組みを進めます

- 当社ホームページにおいて、新幹線・在来線の個別列車の走行位置や遅延の状況、新幹線各駅の発車状況等の情報提供を開始する。
- TOICAについて、2019年春のご利用エリア拡大に向けた準備を進める。

のぞみ 29号	11:30 東京	➔	16:33 博多
 現在、豊橋～三河安城間を遅れて走行中			
	停車駅	到着時刻 発車時刻	到着状況／見込み
	豊橋		
	三河安城		
	名古屋	13:11 13:13	+35～45分
	岐阜羽島		
	米原		
	京都	13:48 13:50	+35～45分

ホームページの表示イメージ（新幹線）

- (参考) ・新大阪駅可動柵：20～26番線に設置 2022年度完了予定 ※27番線は設置済  
・金山駅可動柵：2018年秋頃まで実証試験を実施予定  
・TOICAエリア拡大  
東海道本線（柏原～醒ヶ井）御殿場線（下曾我～足柄）関西本線（南四日市～亀山）
- ・内方線付き点状ブロック  
乗降5千人以上の駅 整備完了  
3千人から5千人の駅 2018年度に完了予定（2年前倒し）

# 超電導リニアによる中央新幹線計画の推進

(設備投資額：2,500億円)

## 超電導リニアによる中央新幹線計画について、安全、環境、地域との連携を重視し、沿線各地で工事を着実に進めます

- 中央新幹線計画については、**健全経営と安定配当を堅持**し、柔軟性を発揮しながらプロジェクトの完遂に向けて、さらなる緊張感を持って着実な推進に取り組む。
- 引き続き、**地域との連携を密にしながら、測量、設計、用地取得等**を計画的に遂行する。
- 工期が長期間に亘り難易度が高い、**南アルプストンネル、品川駅、名古屋駅**のほか、**山岳トンネル、都市部非常口等**について、引き続き**トンネルや非常口の掘削、地中連続壁の構築等**を進めるとともに、2018年3月に認可を受けた中央新幹線品川・名古屋間の工事实施計画（その2）に基づく**電気関係工事**等必要な準備が整ったところについても、**工事の安全と環境の保全を重視し、各種工事を着実に進める**。
- 中央新幹線の高度かつ効率的な運営・保守体制の構築に向けて取り組む。



南アルプストンネル(長野工区)：斜坑の掘削



品川駅：地中連続壁の構築



北品川非常口：立坑の掘削

(参考)・地中連続壁：大規模な掘削に先立って、周囲の地盤を防護するために構築する連続したコンクリート壁

# 超電導リニア技術のブラッシュアップ及びコストダウン

(設備投資額：40億円)

## 超電導リニア技術のさらなるブラッシュアップ・コストダウンに引き続き取り組めます

- 山梨リニア実験線において、営業線仕様の車両及び設備により、2編成を交互に運用して、引き続き**長距離走行試験**を実施する。
- 営業運転に対応した保守体系の確立に向けた実証等を進めるとともに、さらなる**超電導リニア技術のブラッシュアップ**及び**営業線の建設・運営・保守のコストダウン**に取り組む。
- 「**超電導リニア体験乗車**」を引き続き計画的に実施し、超電導リニアのさらなる理解促進に取り組む。



L0系



超電導リニア体験乗車

# 営業施策の強化

(設備投資額：110億円)

## 新幹線のネット予約を多くのお客様にご利用いただけるよう取り組みます

- ・「**エクスプレス予約**」及び「**スマートEX**」の便利さを知っていた  
だき、より多くのお客様にご利用いただけるよう取り組む。
- ・「EXのぞみファミリー早特」など**観光型商品**の販売促進を通じて  
幅広く需要の喚起を図る。



「TRY! EX」ポスター

## 沿線の観光資源の魅力を活かし、営業施策を積極的に展開します

- ・京都、奈良、東京、飛騨、伊勢志摩等を対象に、**魅力ある商品設定**  
や**観光キャンペーンの展開**に取り組む。
- ・JR 6社で行う「**愛知デスティネーションキャンペーン**」を通じて、  
自治体や旅行会社等と連携し、魅力ある観光素材・商品の開発や観  
光列車の運行等に取り組む。



「そうだ 京都、行こう。」  
桜編 (勸修寺)

## 海外からのお客様に便利に鉄道をご利用いただけるよう取り組みます

- ・「**スマートEX**」の訪日外国人向けサービスのご利用拡大を図ると  
ともに、周遊きっぷ等の販売促進に努める。
- ・スマートフォン等でネット予約や運行情報・観光情報を取得できる  
環境を整備するため、**駅や車内の無料Wi-Fiサービス**を拡大する。
- ・在来線に**駅ナンバリング**を導入する。



駅における無料Wi-Fiサービス  
利用可能エリアを示すステッカー

(参考)・「エクスプレス予約」会員：337万人 「スマートEX」登録者：61万人 (ともに2月末時点) 利用実績合計：17万件/日 (2月実績)  
・無料Wi-Fiサービス提供範囲：東海道新幹線N700Aタイプ、特急「ひだ」車内、新幹線全17駅、在来線24駅 (新幹線との併設駅6駅含む)  
・駅ナンバリング対象駅数：在来線176駅

# 技術開発の推進、地球環境保全、高速鉄道システムの海外展開

(設備投資額：10億円)

## 安全やコストダウンに資する技術開発、地球環境保全の取組みを推進します

- ・ N700S 確認試験車による走行試験を行い、量産車の仕様確定に向けて最終確認を行う。
- ・ 安全性や快適性の向上とともにトータルコストの低減を図るハイブリッド方式による在来線次期特急車両の試験走行車の新製を進める。
- ・ 状態監視技術等を活用した検査や保守の高度化・省力化、及び設備の維持更新におけるコストダウンにつながる技術開発を推進する。
- ・ 各種災害等に対して、より安全性を高めるための技術開発を実施する。
- ・ N700Aなどの省エネ型車両への取替等、地球環境保全に資する諸施策を推進する。



N700S 確認試験車

## 高速鉄道システムの海外展開の取組みを推進します

- ・ 米国テキサスプロジェクトの事業開発主体に対し、現地子会社（HTeC）により技術仕様策定等の技術支援を進めるとともに、超電導リニアシステムを用いた米国北東回廊プロジェクトのプロモーション活動を推進する。
- ・ 台湾高速鉄道において運行管理システムの更新工事等の技術コンサルティングを引き続き進める。
- ・ 「Crash Avoidance（衝突回避）」の原則に基づく日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組みを進める。



HTeCによる技術支援の様子

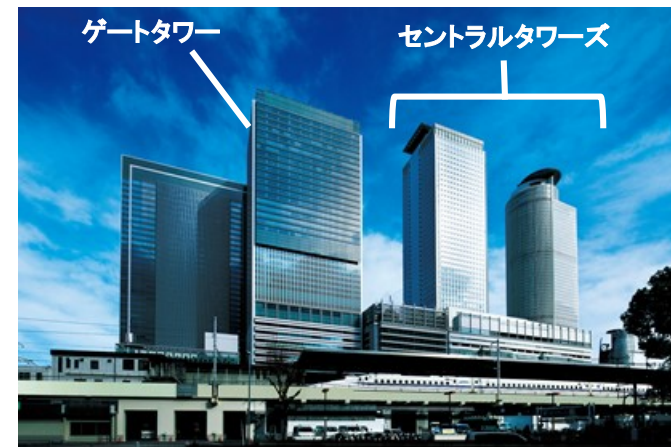
(参考) ・ N700S：2020年度に営業車両を投入する方向で検討中  
・ ハイブリッド方式による在来次期特急車両：2019年末に試験走行車が完成予定、1年間を目途に試験を実施  
2022年度を目標に量産車を投入する方向で検討中



# 関連事業の着実な推進

(設備投資額：320億円 (うち連結子会社の設備投資290億円))

JRセントラルタワーズとJRゲートタワーを中心に、お客様により一層満足いただけるよう、関連事業を推進していきます



セントラルタワーズとゲートタワー

- JRセントラルタワーズとJRゲートタワーを一体的に運営し、既存事業も含めて、相乗効果を最大限に発揮することにより、様々なニーズにお応えし、収益の拡大を図る。
- 流通事業や駅ビル事業の活性化、当社所有地の有効活用に取り組み、さらなる収益拡大を図る。また、高架下開発等により、事業区画の拡大に取り組み、収益基盤強化を図る。



「セントラルガーデン・レジデンス 岐阜加納」

(参考) ・東京グルメゾーン: 東京駅一番街2Fに 2018年6月開業予定  
・セントラルガーデン・レジデンス岐阜加納: 2018年3月販売開始